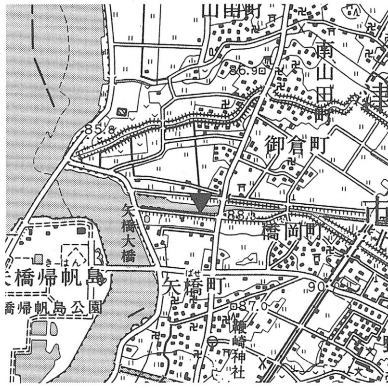


滋賀・北萱遺跡
きたかや

- 1 所在地 滋賀県草津市矢橋町
- 2 調査期間 一九八四年(昭59) 四月～一九八六年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 三宅 弘
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代前期～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都東北部)

北萱遺跡は、草津市の西南部に位置し、北川の下流域にあたる。草津市内の河川は、その源流部分に花崗岩の風化した脆弱な土壌を

もつ金勝山地などの山々を控えているため、古来大雨の後の氾濫に悩まされ続けてきた。その結果として河川天井川化が促進され、周辺の平地は排水状況の著しく悪い土地になった。このため天井川の平地河川化が計画され、それに伴う発

掘調査が実施されることになった。試掘調査の結果に基づき、主要地方道彦根～近江八幡～大津線(通称浜街道)の西側において、北川より北をA地区、南をB地区として、発掘調査が行なわれた。

A地区では東端で検出された平安時代の溝と、東方に広がる遺物包含層の範囲を、B地区では本川部分の東側全域を対象として調査が実施された。多量の遺物が出土しているが、ほとんどは包含層からの出土である。時期は縄文時代前期から江戸時代までと幅広いが、その中心は古墳時代前期と平安時代末から鎌倉時代にかけてである。包含層出土の遺物は、土器を始めとして、木器・金属器・石器・土製器・古銭と幅広い。七点の木簡も全てこの包含層より出土した。

8 木簡の积文・内容

- (1) [キヤカラバエ] 南无阿弥陀仏] 530×59×5.5 061
- (2) 南无阿弥陀仏] 414×85×5 061
- (3) 602×52×5.5 061
- (4) [門] 184×26×2 061
- (5) 290×23×3.1 061

